

資料館だより

発行所

高松宮記念ハンセン病資料館
 〒189 東京都東村山市青葉町4-1-13
 電話 0423-96-2909
 FAX 0423-96-2981
 郵便振込 00130-7-764159
 高松宮記念ハンセン病資料館運営協力会

21世紀は共生社会を

三三六名が参加

ハンセン病患者、元患者

東京都、東村山市で開催しました。

所、愛知県、茨城県保健衛生予防課、厚生省保健医療局、文部省教科書調査官、大阪人権博物館、全生園看護学校など、療養所関係では松丘、栗生、駿河、邑久、菊池、星塚、沖繩、復生、多磨その他報道関係など多

彩な顔ぶれでした。成田稔運営委員長の挨拶につづいて、佐川運営委員の司会で四人の講師・佐藤エミ子あせび会会長、菅原進全精連副代表、屋鋪荒一HIVグループ、神美知宏全療協事務局長が、それぞれの立場から回りの無理解、偏見差別のある中で「これからをどう生きるか」について、切実な訴えがありました。

またその家族等を九十年間に亘り苦しめてきた偏見差別の根元、「らい予防法」が廃止されたことを受け、資料館では三周年記念シンポジウム「これからをどう生きるか」を六月二十三日(日)13時より16時15分まで、全生園コミュニティセンター(公会堂)において主催・藤楓協会、資料館、後援・厚生省、

当日は地元東京をはじめ関東六県、青森、静岡、愛知、大阪、岡山、熊本、鹿児島、沖繩など各府県より三三六名が参加しました。大学別では立教、専修、埼玉、中央、慶応、国士館、淑徳短大、国際医療福祉大、聖マリアンナ医科大学、聖公会神学院など、団体では全国精神障害者団体連合会(全精連)、同家族連合会(全家連)、稀少難病者全国連合会(あせび会)、東村山身患連、障都連、全障研東京支部、全国国立ハンセ

助言者の大谷藤郎先生は「どう生きるかと言うことは人間としての普遍的な課題であり、それぞれ立場は違いますが自分だけの幸せは認められない。21世紀は共に生きる社会をつくるため、全ての人が一緒に努力すべきだ」と述べました。

その後会場の質問者七人と講師の間で、エイズ予防法、菅厚生大臣の謝罪等について、活発な質疑応答が行われました。(シンポジウムの記録は後日、ブックレットになります)

3周年記念シンポジウム「これからをどう生きるか」

後援・厚生省、

全障研東京支部、全国国立ハンセ



その後会場の質問者七人と講師の間で、エイズ予防法、菅厚生大臣の謝罪等について、活発な質疑応答が行われました。(シンポジウムの記録は後日、ブックレットになります)

自主映画「見えない壁を越えて」 制作資金募金にご協力を!

自主映画

「見えない壁を越えて」の撮影は予定より若干おくれで現在、鹿児島、沖縄支部と撮影前の話合いを行って

いる段階です。一方「制作資金」の募金については、全療協本部からの指示もあり、六月末現

在十支部から一人一口千円

見当の募金が寄せられております。菊池、奄美、多磨、邑久などの全医労支部、職員関係や、資料館内の募金箱にも浄財が寄せられております。資料館見学に見えた北海道八雲看護学校生徒一同よりポリピンにつめた二万一二四円を、また多磨看護学校一年生「ハンセン病研究班」六名が一万円を、多磨給食棟職員が煙草代を節約して七五〇円をそれぞれ「映画制作資金に」

と届けてくれました。

またシンポジウム参加者

より三万円、資料館見学に來られた邑久支部療友一同より四万円の寄付がありました。多磨支部では一般募金の他に自治会より一〇〇万円の特別カンパが寄せられておりますが、その他会員や故人となられた方のご施主様よりも過分な特別カンパが寄せられています。

目標の自己負担金一四五〇万円には及びませんが、募金協力に感謝申し上げます、今後共よろしくお願い申し上げます。

予防法廃止の波紋

と各支部で次々と記念集

会が開かれています。

三月三十日(土)資料館に松葉杖の障害者が訪ずれ

は予防法廃止を喜ぶ手紙とともに「資料館で使つて下

す。

した。

また都内のある婦人からは予防法廃止の波紋

は除々に広がっているようです。

からも頑張つて下さいと、喜びと励まし

の言葉をかけて頂いており

ますが、予防法廃止の波紋

は除々に広がっているようです。



昔むかし写真展 光明園よりバスツアー

資料館では一昨年の「多磨全生園・神山復生病院」昨年「菊池恵楓園・琵琶崎待労病院」につづいて、今年五月一日より六月三十日まで「邑久光明園・大島青松園昔むかし写真展」

を研修展示室で開催しました。期間中資料館を訪ずれる人は例外なく写真展も興味深そうに、あるいは熱心に見て行かれました。六月十日には邑久光明園療友と職員(三名)二十四名が、バスで来訪、十一日は資料館で展示品や写真展をじっくりと眺め、なつかしさの余り時には大声で笑ったり、話し合う場面もありました。



なお来年は「松丘保養園・長島愛生園昔むかし写真展」開催を予定しています。

来館者の声

予防法廃止を喜ぶ

・学生 20歳 女性

・主婦 33歳 女性

病気などに対する社会の差別を考えさせられた。なぜこのようになったのか？何が悪かったのか？国の責任は？マスコミに責任はなかったのか？反省のないところに進歩はない。

もうくりかえすことのないように沢山の人が、このことを考えた方がいいと思

資料館では開館三周年記念の一環として、一般より「らい予防法廃止について」をテーマに評論を募集しておりましたが、療養所入所者(七園)八篇、同職員(二園)二篇、看護学校二篇、計十二篇の応募がありました。

いづれも力作ぞろいでしたが、運営委員会で検討の結果、次のように選考致し

私は法律を学んでいます。今日程人権について深く考えさせられたことはありませんでした。このようなあやまちを二度とくりかえさない義務が我々国民にはあると思います。らい予防法の廃止、新法制定本当によかったと思います。

・学生 22歳 女性

広いスペースに資料が沢山展示してあって良い。事実を包み隠さず表現されていて良い。もつと多くの人に来館してもらおうよう、多くの広告(TV等)を利用して

いて」杏林看護専門学校

・学生 22歳 男性

・学生 22歳 女性

すると良い。本当に見に来て良かったと思う。

・元看護婦 68歳 女性

今まで資料館の存在を知らなかったことが残念でたまらない。「らい予防法」が廃止になり患者さんの代表者に、菅厚生大臣があらまっておられたが、国民の全てがあやまらなければならぬことだと思った。

無関心であったがために運動の支援もなかった事を恥じています。残り少ないかも知れませんが頑張ったのしい人生を送って下さい。

「らい予防法廃止とこれからの課題」

・学生 22歳 女性

・無記名 50歳 男性

国家の政策として行われてきた隔離政策により療養所で一生を送らざるを得なかった人々のことが、一枚一枚の写真、資料の奥に隠されていることを想像すると絶句してしまいます。

ハンセン病の歴史の一部にせよ、こうして残されていることを嬉しく思います。

ここまで迫害にあつていたとは知らず驚きました。認識不足で反省しています。

沢山の人がこの事実を知ってほしいと思います。

・無記名 33歳 女性

評論 入選三篇決まる

◎「入園者の社会参加を推進する」

宮古南静園 与那覇次郎

◎「心の青空を求めて」

長島愛生園 石田雅男

◎「らい予防法の廃止を永くする」

松丘保養園 菊地正実

◎「心の青空を求めて」

長島愛生園 石田雅男

◎「らい予防法の廃止を永くする」

松丘保養園 菊地正実

◎「心の青空を求めて」

長島愛生園 石田雅男

◎「らい予防法の廃止を永くする」

松丘保養園 菊地正実

◎「心の青空を求めて」

長島愛生園 石田雅男

図書利用の皆様へ

— 閲覧は申請手続きを —

この度、所蔵文献の閲覧方法を従来の「自由閲覧」から「申請閲覧」に変更することにいたしました。

① 所定の「図書カード」申請用紙に必要事項を記入の上、身分を証明できるもの（免許証、学生証など）を添えて図書係へ提出して頂き、利用者の図書カードを発行致します。

② 閲覧机に置かれた所蔵文献リスト（三種）を参考に閲覧したい本を探し、所定の閲覧申込み用紙に記入し、①の図書カードと一緒に図書係にお出し下さい。

新刊紹介

らい予防法

廃止の歴史

愛は打ち克ち

城壁崩れ陥ちぬ

大谷藤郎著

国家による強制収容、終生隔離、断種……人権無視の法律がなぜ九十年も存続し得たのか！ハンセン病者の苦難と屈辱の歴史を辿り、「らい予防法の廃止に関する法律」が立ちとられるまでの闘いを著者自身の生の軌跡と反省に重ね合わせて、人間の自由とは、尊厳とは、それを奪う社会とはなにかを、今、その歴史に問う！

リーズ66）
定価 四千三百二十六円
らい予防法
44年の道のり
成田 稔著

— 4 —

一八七〇年二月一三日、イギリス生まれ。叔母リデルと同様伝道師として来日後、一九二三（大正一二）年、リデルの事業を補するために回春病院に赴任する。

昭和七年より二代目院長としてハンセン病救済活動に従事するが、戦争の足音と国策としての患者収容の暗黒の時代のなかで苦難の時期を迎える。一九四一（昭和一六）年の回春病院閉鎖

先駆者⑧

ミス・エダ・ライト

一八七〇〜一九五〇

者を奪い去った。病院は空になった」と記されている。ほどなくライトは当局によってオーストラリアに追放

にありつづけた。昭和二三年再来日、昭和五年その死の日をむかえるまで、龍田寮（未感染

勤草書房（医療・福祉シ
児童」保育施設）の子供たちと療養所に住む患者とともにあった。
リデル、ライト両女史はこよなく愛した回春病院の患者とともに、現在のリデル・ライト記念老人ホームの納骨堂で、新しい時代を見守りつつ永遠の眠りについでいる。



◎あ тогоがき

◎新刊書の取扱いは資料館で行なっています。
定価八百円十税 皓星社ブックレット③
◎新刊書の取扱いは資料館で行なっています。
昨年、阪神大震災とオウム真理教、今年には住専とエイズ薬害訴訟と大きなニュースの影に隠された感じが、ハンセン病関係者にとっては「らい予防法廃止」は画期的な出来事だった。人権が回復されたとはいえないものの、まだ壁は厚い。残された時間は少ないが、生きた証をつかもう！ 修

~~~~~